

平成 29 年度 第 1 回 アドバイザリーボード 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 11 月 20 日（月）15:00～17:00

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室

3. 出席者：

（委員）近藤議長、相澤委員、岡委員、杉本委員、田代委員、東嶋委員、戸田委員、渡部委員、竹内委員代理

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、樽林執行役、泉統括役、松尾経営企画部長、岡安総務部長、前田経理部長、中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、高見産学連携部長、野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、河野臨床研究・治験基盤事業部長／創薬戦略部長、久保革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長

4. 議事

1. 日本医療研究開発機構の取組と課題について
2. 法人評価の結果について
3. その他

5. 議事の概要

事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、アドバイザリーボード規則 3 条 2 項により、委員の互選により近藤委員を議長に選出した。

議事 1 について、事務局より日本医療研究開発機構の取組と課題について資料 1-1 及び 1-2 を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- ICT 基盤研究グループができたことに期待している。これを機に、CIN や画像データベース、ヒト試料やサンプルを使う研究で臨床情報を活用する際の対応が AMED 内で共通化されていくことも期待している。
- IRB について、中長期的には間接経費の使途として明確にされるとよいと思う。
- IRUD-Beyond は、今は治療法がないとしても、その開発に向けて研究が続いているということが分かると希望になるのではないか。

- IRUD について、非常に力を入れていただいております、子どもと成人の接点も作っていただいている。
- IRUD では、正しい病名で診断されていないで治療を受けている方に適切な診断をつけていくことが本丸だと思う。
- ICT によるデータ利活用は大事なテーマであり、いろいろなデータを集めることは第一歩として動いていただいているが、それを使うところでいろいろな課題が出てくるので利活用を広げる取組をお願いしたい。
- ステージゲートの取組は、客観的に判断するいい試みであり、是非進めていただきたい。ただ、革新的な新薬については、前例がなく判断が難しい一方、止めてしまうと新薬が出てこないことにもなるので、どういったエビデンスに基づいて判断するかも取組をお願いしたい。
- 前回説明の時点から随分進んでいて、目指しているところに向けて、ファンディング機能を通じて動いていただいていると思う。
- 研究不正に対しては各大学で対応がかなり異なっているケースがあるが、共通化などを考えているか。

議事 2 について、事務局より、日本医療研究開発機構の平成 28 年度法人評価の概要について資料 2 を基に説明を行った。また、議事 3 について、事務局より、平成 30 年度医療分野の研究開発関連予算の概算要求のポイントについて資料 3 を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 再生医療におけるアカデミアの研究の加速やインキュベートのために、産業団体や AMED 等で、出口までシームレスにプロセスが見えるような仕組みにしていくことが必要。
- 毎回議論が深まっていくことが強く感じられる。組織が活性化していると思う。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。